


クラス	C102	担当教員	加茂 浩靖
	テーマ	地域に学ぶ地域経済学	
	著書・論文 研究課題等	『人文地理学事典』（共著）丸善出版 2013 年。 『人材・介護サービスと地域労働市場』（単著）古今書院 2015 年。 『地図でみる日本の健康・医療・福祉』（共著）明石書店 2017 年。 『Community-based Integrated Care and the Inclusive Society: Recent Social Security Reform in Japan』（共著）Springer2021 年。	
ゼミナール概要			
【キーワード】 地域経済、地理学、フィールドワーク			
【目的、内容、方法等】			
<p>1. 目標</p> <p>このゼミの目標は、地域経済学と地理学の考え方や分析方法を基礎にして、知多半島をはじめ様々な地域を事例にした調査実習を体験し、各地域が抱える問題の発見・分析・解決の方法を身につけることにあります。地域経済の実情を身をもって学習するのがこのゼミの特徴です。このため、地域経済に関する図書・雑誌の学習、フィールドワークによる資料収集、コンピュータを用いたデータ分析、研究成果の発表などを試みます。これらの学習活動を通じて、社会に出ても通用する調査研究能力を身につけます。</p> <p>2. 内容</p> <p>日本の観光地の中には、国内のみならず海外からも多くの観光客を集めている地域がある一方で、地元の常連客のみを集めている地域もあります。このように経済の状況は地域により様々です。また、スーパーマーケットでは地元で作られない珍しい食品を見かけることがあります。すなわち、私たちの生活はその地域だけで成立しているのではなく、様々な地域との結びつきの中で成立しています。身近な地域で販売されている食品がどこから調達されているのか、経済活動に地域差が生じるのはなぜか、こうした疑問に答えるのが地域経済の課題の1つです。この課題を解決するためには、関連する理論を学び、それを現実経済に当てはめて考えること、そして実際に現場へ足を運び、そこで得た情報等をもとに実態を明らかにすることが大切です。このゼミでは地域経済学および地理学に関する理論を学び、確かな問題意識のもとに実証分析を行ない、解決策を検討します。なお、研究テーマは、学生自身の関心に基づいて幅広い分野から選ぶことができます。一例をあげると「地場産業を生かした観光振興」、「名古屋市における総合型地域スポーツクラブの発展」、「地理情報システム（GIS）を用いた公共施設の適正配置」などです。</p> <p>3. 授業の年次計画</p> <p>2 年次：図書や雑誌を用いた専門分野の学習（学生が内容を要約し、レジュメを作成して発表します）</p> <p>3 年次：コンピュータを用いた資料分析、分析結果のグラフ化・地図化・プレゼンテーション 地域研究および調査実習（事前の準備演習を行ったあとで現地調査を実施します）</p> <p>4 年次：個々の学生のテーマに沿った卒業研究の実践</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の意見を聞いたうえで、フィールドワーク、合宿等の実施時期や場所を決定します。 ・コンピュータを用いたデータ分析では、学生の能力に合わせた指導を行います。 <p>（注意）</p> <p>合同説明会や個別説明会等の担当教員との面談を経たうえでエントリーしてください。 合同説明会やオフィスアワー以外でも面談は可能です。メールで希望日時を知らせてください。</p>			
【使用テキスト】 授業で指示します。			
担当教員からのメッセージ			
<p>地元のことを深く知りたい人、地方公務員などの地域との関わりが強い職をめざしている人、アウトドアが好きな人、旅行が好きな人などにおすすめします。</p>			